

日本感情心理学会 2025 年度常任理事会・理事会 議事録

日時：2025 年 10 月 24 日（金）17:30～19:00

会場：ライトキューブ宇都宮 4 階 小会議室 401+オンライン

出席者（以下、敬称略）：有光興記（理事長），澤田匡人（副理事長），稻垣勉（事務局長），福田哲也（事務局幹事）*，木村健太，蔵永瞳，手塚洋介*，樋口匡貴*，一言英文*，藤村友美*，薊理津子*，大平英樹，北村英哉，小林亮太，白井真理子，中村真，武藤世良*，門地（仙波）里絵*，山本晶友*
*オンライン参加

委任：鈴木敦命，山本恭子

オブザーバー（監事）：谷口高士（欠席），阿部恒之（欠席）

【審議事項】

1. 会費未納による除名

・有光理事長より、資料に基づき、会費未納者の確認が行われた。3 年間以上の会費未納となっている会員の除名が承認された。

2. 2024 年度の決算案

・有光理事長より、資料に基づき、2025 年度の収支決算報告および谷口監事，阿部監事による監査における意見とその結果が報告され、承認された。

3. 2025 年度の予算案

・有光理事長より、2025 年度の予算案について説明され、承認された。

4. 2024 年度（第 32 回）大会（大阪体育大学）会計報告

・手塚常任理事（第 32 回大会実行委員会委員長）により、2024 年度（第 32 回）大会の会計報告がなされ、承認された。

5. 監査報告について

・有光理事長より、本年度から監事の先生方に理事会にオブザーバーとしてご参加いただけるよう手配を行ったことに併せて、本学会の口座の整理について検討依頼があり、承認された。

6. 各種規程の改正について

・有光理事長より会則・細則・学術プログラム委員会規程の改正について説明があり、審議の結果、承認された。総会での議決を要するものは、大会初日の総会で諮ることとした。

7. ワーキンググループ（以下 WG）のメンバーについて

・有光理事長より、「多様な研究者の支援 WG (Universal Research Support: URS)」「国際交流、国際学会との連携 WG (International WG)」（いずれも仮称）の設置が提案され、了承された。今後は WG 長などを決

定することも期して、個別に声掛けをしていく旨が共有された。

8. 大会開催（有光）

・有光理事長より、2026年度に開催される大会について、名称を「第44回日本生理心理学会大会・日本感情心理学会第34回大会合同大会」とし、大会実行委員会委員長は大平英樹先生（名古屋大学）、会期は2026年4月24（金）-26日（日）とすることが提案され、承認された。また、2027年度（第35回）大会は広島修道大学（大会実行委員会委員長：中西大輔先生）で開催予定であること、2028年度以降は交渉中であるとともに、立候補を受付中であることが報告された。

【報告事項】

1. 会勢報告

・有光理事長より、資料に基づき、現在の会勢が報告された。

2. 各委員会報告

・学術プログラム委員会（年次大会／セミナー／出版）

一言委員長より、資料に基づき、学術プログラム委員会活動および第32回大会のプレカンファレンス等についての報告が行われた。また、本年度内にセミナーを開催する方向で検討中であることが報告された。

・機関誌刊行委員会

各編集委員会からの報告とする。

・感情心理学研究編集委員会

藤村編集委員長より、編集委員会活動に関して、学会誌への投稿数および審査状況の推移、編集状況、編集委員（任期満了、新規就任）などについて報告があった。また、第32巻優秀論文賞の選考プロセスを進めていることが報告された。そのほか、即時オープンアクセス方針への対応について、早期公開を行いたい旨の審議依頼があり、審議の結果、承認された。また、「J-STAGE投稿審査システム」の終了および新たな運用・利用要件での再スタートについて情報提供があり、2027年9月にサービスが終了することから、今後の検討が必要であることが報告された。

・エモーション・スタディーズ編集委員会

蔵永委員長より、編集委員会活動に関して、ESの発行状況、編集状況編集委員（任期満了、新規就任）などについて報告がなされた。また、特集の企画応募を促すため、学会ホームページの応募要項を加筆予定であることが報告された。

・倫理委員会（樋口）

特に報告事項なし

・ECR会（小林）

小林理事より、若手の会（仮）をキャリア初期研究者（ECR）会として、2025年度から活動を開始したことが報告された、キャリア初期の会員の交流・情報共有を目的として、第33回大会では「次世代フロンティア・セッション」「ECR交流セッション」を実施することが報告された。

3. 表彰関係

・有光理事長より、優秀論文賞および学術貢献賞、大会発表賞の各賞について報告がなされた（精励発表賞は該当者なし）。受賞者は以下の通りである。

・優秀論文賞 :

小宮 あすか先生・溝川 藍先生・後藤 崇志先生（対象論文は以下のとおり）

後悔の経験・予期・利用能力の発達（第31巻1号）

松本 美涼先生・尾形 明子先生（対象論文は以下のとおり）

持続的注意と定位反応と実行注意の3要因の交互作用と社交不安の関連（第31巻2号）

・学術貢献賞

向井智哉先生（対象論文は以下のとおり）

27巻3号：（向井智哉・松木祐馬）厳罰傾向と犯罪者および被害者に対する感情的反応との関連—犯罪不安、怒り、共感に着目して—

30巻3号：（向井智哉・貞村真宏・湯山祥・松木祐馬・綿村英一郎）特定少年への量刑に対する実名報道の効果

32巻1号：（向井智哉・湯山祥・新井忍・松木祐馬・貞村真宏・小泉瑠璃）刑事裁判判決文における各種感情への言及

松木祐馬先生（対象論文は以下のとおり）

27巻3号：（向井智哉・松木祐馬）厳罰傾向と犯罪者および被害者に対する感情的反応との関連—犯罪不安、怒り、共感に着目して—

30巻3号：（向井智哉・貞村真宏・湯山祥・松木祐馬・綿村英一郎）特定少年への量刑に対する実名報道の効果

32巻1号：（向井智哉・湯山祥・新井忍・松木祐馬・貞村真宏・小泉瑠璃）刑事裁判判決文における各種感情への言及

山本晶友先生（対象論文は以下のとおり）

26巻3号：（山本晶友・樋口匡貴）受け取った恩恵の相対的な大きさが感謝に及ぼす影響—他者が受け取った恩恵を比較対象として—

30巻2号：（山本晶友・入江ひとみ・大石有里花・上杉優・樋口匡貴）謝罪型感謝「**【差替】**の起りやすさにゼロサム信念が及ぼす影響

31巻2号：（山本晶友・三沢悠貴・鈴木蓮・富澤茉衣・植田綾那・上坂千春・樋口匡貴）利益提供者の非道徳性に対する感謝の感受性—Yu et al.(2022) の事前登録付き概念的追試—

・大会発表賞

・優秀研究賞：石川 直樹先生（共著者：梅田 聰先生）

題目：顔のほてりに対する内受容感覚と他者の感情強度の評定との関連性

・優秀研究賞：上田 真由子先生（共著者：武内 寛子先生・和田 一成先生・臼井 伸之介先生）

題目：感情表出の事前実施が緊急事態時の行動を改善させる

・若手優秀発表賞：荒川 玲音先生（共著者：関谷 大輝先生）

題目：あなたの「ありがとう」はワンコインで姿を変える—商業的サービス利用時における顧客の感謝と負債感情に関する検討—

・若手優秀発表賞：隅田 莉央先生（共著者：清水 佑輔先生・村本 由紀子先生）

題目：選択式問題で生じた後悔がその後の学習に及ぼす影響—フィールド実験による検討—

・精励発表賞：該当なし

以上